

国語 第5学年 伝えたいことを整理して、報告しよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ。目標・評価規準・単元計画・本時の活動に対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 「伝えたいことを整理して、報告しよう」 教材名 「みんなが使いやすいデザイン」

2 単元の目標

情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ。この教材では、目的・利用場面・根拠の分類表と報告文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

当事者の立場を勝手に代弁せず、確認できた仕様や使い方を資料と区別して記す。調査で個人情報を集めない。想定する難しさは、体験していない人の困難や効果を断定する。評価では、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしているかを、目的・利用場面・根拠の分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～4時：○身近な設備や表示を、利用する人と働きの観点で調べる。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第5～7時（本時）：○身近な設備や表示を、利用する人と働きの観点で調べる。観察・資料・感想を分け、同じ目的の工夫を分類する。報告する中心を選び、根拠が不足する所を再確認する。 評価：思①（発

言・活動中の記録・作成物)

第4次 第8時：○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（5／8）

（1）本時の目標

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「だれにとっての使いやすさを、どの資料や事実で説明しますか」

【めあて】使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ。

予想される児童の反応：・見た目だけでは使いやすい理由が説明できない。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「だれにとっての使いやすさを、どの資料や事実で説明しますか」

身近な設備や表示を、利用する人と働きの観点で調べる。観察・資料・感想を分け、同じ目的の工夫を分類する。報告する中心を選び、根拠が不足する所を再確認する。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・見た目だけでは使いやすい理由が説明できない。

・人によって使う条件が違う。

指導上の留意点：当事者の立場を勝手に代弁せず、確認できた仕様や使い方を資料と区別して記す。調査で個人情報を集めない。

想定する難しさ：体験していない人の困難や効果を断定する。

評価では、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしているかを、目的・利用場面・根拠の分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

目的・利用場面・根拠の分類表と報告文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・人によって使う条件が違う。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「だれにとっての使いやすさを、どの資料や事実で説明しますか」。中央は、目的・利用場面・根拠の分類表と報告文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

